

# COP28の位置づけ

気候変動とエネルギー領域  
田村堅太郎

# COP28の位置づけ

IPCC\* 1.5°C特別報告書を受け、  
1.5°C目標を目指すべきとの声  
途上国を含むすべての国の削減  
目標・行動の強化は必要

**COP21**  
パリ協定採択

- 2°C目標、努力目標としての1.5°C目標
- 5年毎のNDC\*引き上げ
- 緩和、6条メカ、適応、損失と損害、資金、透明性、グローバルストックテイク等の包括的枠組み

**COP26**  
グラスゴー気候合意

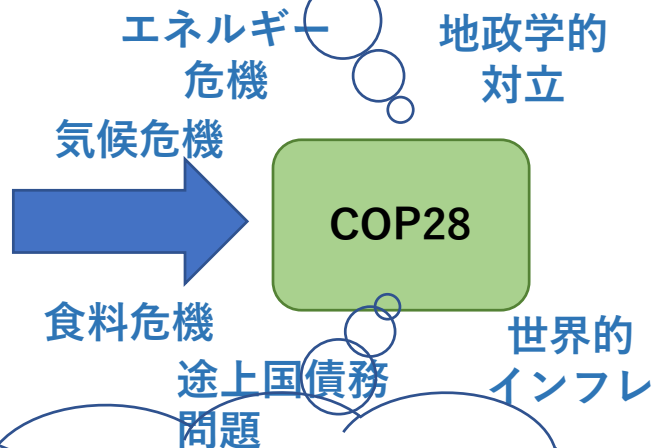
- 1.5°C目標の追求決意
- パリ協定の大枠ルール(6条ルール含む)が決まり、実施段階へ
- NDC見直し・強化
- 石炭、化石燃料補助金、メタンへの対応加速へ

**COP27**  
シャルムエルシェイク  
実施計画

「損失と損害」基金の創設という歴史的合意の一方で、1.5°C目標に向けた取り組み強化についての大きな前進は得られず

**COP28**

グローバル・ストックテイクの成果は？  
1.5°C目標に向けて、さらなる削減目標・行動の強化に合意できるか？  
6条メカニズムの本格稼働なるか？



先進国の2020年1000億ドル目標は未達成  
「損失と損害」への資金支援は先送り  
適応の取り組みや支援は不十分  
その一方で、削減目標・行動の強化は  
すべての国に求められつつける

「損失と損害」基金を運用化できるか？  
適応の世界全体の目標 (GGA) の実現に向けた枠組みに合意できるか？  
1000億ドル目標の達成？25年以降の資金目標は？世界の資金の流れを変えられるか？

\*NDC: 国が定める貢献 = 国別削減目標 \*IPCC: 気候変動に関する政府間パネル